

わたしが道です

エゴー・エイミ



ヨハネの福音書14:1~6

14:1 あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

14:4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

イエス様の自己紹介



エゴー・エイミ

イエス様の自己紹介の言葉は、ギリシア語では「エゴー・エイミ」である。

「わたしは～である」「わたしはある」「わたしである」というヨハネ福音書の特徴、英語に直すと「I am」「ego (私は)」「eimi (いる・ある)」

わたしこそ道である

わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。ヨハネ14:6

これは、わたしこそ道である。わたしこそ真理である。わたしこそいのちである。ということである。

7つの神性宣言

1. 「わたしはいのちのパンです」ヨハ6:35
モーセが与えたパンと自分が与えるパンとの対比



2. 「わたしは世の光です」ヨハ8:12
光と闇の対比



3. 「わたしは羊たちの門です」ヨハ10:7
盗人と羊の門の対比

4. 「わたしは良い牧者です」ヨハ10:11
良い牧者と悪い牧者の対比



5. 「わたしはよみがえりです。いのちです」
いのちと死の対比ヨハ11:25

6. 「わたしは道であり、真理であり、いのちです」
ヨハ14:6

「迷子の状態、無知な状態、死んだ状態」と「道、真理、いのち」の対比

7. 「わたしはまことのぶどうの木」
ヨハ15:1



キリストに留まることと、離れることの対比

人の目にはまっすぐに見える道

「道」があったとしても、その道がどこに向かっている道であるのかはとても重要である。道があればいいということではない。箴言の中にはこのように言っているところがある。

人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。 **箴言14:12**



ヤコブのはしご

ヤコブはベエル・シェバを立て、カランへと旅立った。ある所に着いたとき、ちょうど日が沈んだので、そこで一夜を明かすことにした。

彼はその所の石の一つを取り、それを枕にして、その場所で横になった。

そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしごが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている。 **創世記28:10~12**



創世記28章で、神様から「イスラエル」と呼ばれたヤコブは、ある時、不思議な夢を見た。その夢は「ヤコブの梯子」と呼ばれている。その夢とは、「一つの梯子が天から地に向けて立てられていた。」普通、梯子は地から天に向けて立てられるが、逆に天から地へ向かう梯子であった。

見よ。「わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」と語られたのである。

不思議な夢を見たヤコブは、眠りから目を覚まし、そこを**天に通じる門のある神の家**と名づけて、その場所を「ベテル」と呼んだ。

人間の傲慢さを表す バベルの塔



天から地に向けられたはしご イエス・キリスト

昔から、人間は自分の道で天まで届こうと努力してきた。そのひとつの例が「バベルの塔」である。それは人間の力を示そうとした象徴的な出来事であった。それに引き換え、ヤコブが夢の中で見せられた「一つの梯子」は暗示的である。

キリストは神から遣わされた、天より地に向けて下ろされた「一つの梯子」である。

よってキリストは「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」と断定的に言われたのである。